

●生物応用化学科

1. 教育研究上の目的

本学科は、化学と生物学の素養と知識を基礎に生命現象から環境問題までを多角的に理解・解析できる人材を養成する。その目的を達成するため、食料・健康・環境・資源エネルギーにかかわる諸問題を対象として、基礎から応用にわたる実学的教育・研究プログラムに基づいた教育をする。

2. 教育目標

生物応用化学科は、その人材養成目的を踏まえ、次のような者の養成を教育目標とする。

- (1) 生命現象から環境に関わる諸問題を発見してそれを提起する能力を有する者。
- (2) 化学的視野に立って諸問題の原因を究明する能力を有する者。
- (3) 得られた成果を社会に還元・発信できる能力を有する者。

3. アドミッションポリシー

生物応用化学科では化学、生物の基礎力を持ち、大学で築き上げた知識、技術、発想力、指導力を十分に活かし、国際的な視野に立って実社会の諸問題を解決する意欲のある人を求めている。

- (1) 高校卒業レベルの化学と生物の知識を持っている人。
- (2) 柔軟な思考力、的確な判断力を持っている人。
- (3) 農業関連分野並びに食品・化学産業に関心があり、当該分野で活躍する意欲のある人。
- (4) 論理的な文章を理解し、それを他人に伝えることが出来る人。

4. カリキュラムポリシー

生物応用化学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、以下の専門科目を配置し、これに従い教育を行う。

- (1) 化学と生物の基礎力を固めるための基礎科目。
- (2) 食品科学、動植微生物の生理学、環境科学に関する応用力を養う専門科目。
- (3) 実践力を養うための実験科目。
- (4) 問題発見や解決、計画と実行力、考察力と表現力を養う卒業論文。

5. ディプロマポリシー

生物応用化学科は、土壌、植物、微生物、動物、食品、農薬を対象とした現象を化学的視点から理解し、持続可能な社会システム、より豊かな生活を提案することができる以下の能力を身に付けた学生に対し、学位を授与する。

- (1) 生物とそれを取り巻く環境を理解するために必要な有機化学・無機化学・生物化学・分子生物学の基礎を修得している。
- (2) 応用的な科目を理解し、論理的に考察することができる。
- (3) 自主的な卒業論文研究の遂行を通じて協調性と高い倫理性を持って継続的に行動することができる。
- (4) 研究室演習科目を通じてプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を修得している。